

天文 8

「夏の星空とプラネタリウム」

天文担当 片野田 裕亮

■ 夏の星空

今年の夏も、多くの天文現象を見ることができます。今回はその中から、主な天文現象を3つ紹介していきます。

① 惑星がプレセペ星団を通過



かに座の甲羅の部分に見られるプレセペ星団。色とりどりの恒星が集まる美しい星団です。日没

の西の空において、6月2日から3日には火星が、12日から13日には金星がこの星団の中を通過します。双眼鏡で容易に観察できます。

② ペルセウス座流星群が好条件

三大流星群の一つであるペルセウス座流星群が見ごろを迎えます。2023年は、8月13日に極大となることが予想されています。11日から14日にかけて、21時頃から流星が出現し始め、夜半を過ぎて薄明に近づくにつれて流星の数が多くなると予想されます。リラックスして夜空を見上げてみましょう。

③ 土星が衝

土星が8月27日に「衝(しょう)」となります。衝とは、太陽系の天体が地球から見て太陽と反対側になる瞬間のことです。夕方に東の空から昇り、明け方に西の空に沈むので、一晩中見ることができ、観察しやすくなります。

■ 当館のプラネタリウムについて

丸い半球ドームの中央に配置された投影機で星を投影する近代プラネタリウムは、1923年10月21日に、ドイツ博物館で関係者向けに公開されたのが始まりです。今年はそれから100年とい

うことで、各地で100周年を記念した事業が行われることとなっています。そこで今回は、プラネタリウム100周年を記念して、当館のプラネタリウムを取り上げたいと思います。

当館のプラネタリウム室は57年前(1966年)に開館し、10mドームに同心円型の座席配置(85席)となっています。

現在稼働しているプラネタリウムは、五藤光学研究所製の光学式投影機GX-ATで、43年前(1980年)に設置されました。公開型のプラネタリウム施設では、九州で最も古い投影機を使用しています。このGX-ATで恒星や惑星など約6000個の天体を、固定スライド投影機30台で星座線や星座絵を投影しています。また、プロジェクターで天体写真やイラスト、動画を投影しています。



当館のプラネタリウム番組ですが、年に4回自主制作しています。番組では、天文についてはもちろんですが、星の和名や県内に伝わる星物語の紹介、星と関わりのある本県の自然や文化などの紹介を行っています。郷土に興味・関心をもつていただくとともに、郷土に伝わる天文に関する伝承を、資料や映像として残していくこともふまえて番組制作を行っています。

今年度の夏編は初の試みとして、奄美の中学生が創作した童話を星物語のシナリオに採用しました。今後も、プラネタリウムをとおして、さまざまな教育普及活動を行っていきます。



今年度の夏編は初の試みとして、奄美の中学生が創作した童話を星物語のシナリオに採用しました。今後も、プラネタリウムをとおして、さまざまな教育普及活動を行っていきます。